

会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 1 回弘前城跡本丸石垣修理委員会
開 催 年 月 日	平成 2 7 年 3 月 2 7 日 (金)
開 始 ・ 終 了 時 刻	1 0 時 0 0 分 から 1 1 時 3 0 分 まで
開 催 場 所	弘前市立観光館 1 階 多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	田中哲雄 (元文化庁主任文化財調査官)
出 席 者	北垣聰一郎、関根達人、長谷川成一、福井敏隆、麓和善、柳沢栄司
欠 席 者	千田嘉博
事 務 局 職 員 の 名 職 氏 名	(弘前市都市環境部) 都市環境部長・川村一也、公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、同課長補佐・小嶋修造、弘前城整備活用推進室主幹・石川竜明、同室主査・岡本康嗣、同室主査・横山幸男、同室主事・今野沙貴子 (記録) (弘前市教育委員会) 教育部長・柴田幸博、文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・斎藤弘之、同課文化財保護係長・鶴巻秀樹、同係主査・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介、同係主事・工藤麻衣、同係主事・東海林心、同係主事・吹田昂平、同係主事・福原健
会 議 の 議 題	①委員の追加について ②今年度の発掘調査の成果について ③石垣修理基本設計について
会 議 結 果	① 今後予定されている天守曳屋と天守保存修理に備え、文化財建造物を専門とする麓和善名古屋工業大学大学院教授を委員として迎えたい旨を委員会に諮り、了承を得た。 ② 東西・南北方向の土層断面図で、石垣背面の各盛土の関係性をより明確にすること。天守台の現況記録においては、礎石の有無と、地表面に入る亀裂を意識すること。 ③ 石垣の積み直しは、伝統工法で行う。来年度以降の石垣解体にも、文化財担当者がしっかり関わるようにする。
会 議 資 料 の 名 称	① 平成 2 6 年度弘前城本丸発掘調査成果について ② 平成 2 7 年度弘前城本丸発掘調査計画について ③ 史跡弘前城跡本丸石垣修理工事計画

会 議 内 容

(発 言 者 、
発 言 内 容 、
審 議 経 過 、
結 論 等)

① 委員の追加について

(事務局) 石垣修理事業に伴い、今後予定されている天守曳屋と天守保存修理に備え、文化財建造物の専門家を石垣修理委員会に加えるよう、文化庁より指導があった。今回より、名古屋工業大学大学院教授・麓和善先生を新たな委員として迎えたい。(委員会) 異議なし。

② 今年度の発掘調査の成果について

(事務局)

- ・調査区南側を中心に、最大で地表面からの深さ約 250 cm地点まで掘削した。
- ・検出したのは盛土のみで、地山は確認されていない。
- ・調査区南側(1～9グリッド)に確認した盛土は、西端に堆積する盛土③以外、すべて近代以降のガラス片か、崩落したものであると思われる築石を含んでいる。
- ・1～4グリッドに分布を確認した「礫多量含む白色粘質土」は、近代に崩落したとされる「十間半」の石垣範囲背面にほぼ収まる。また、盛土①(礫あり)と盛土②新の組み合わせは、9グリッドを北限として分布しており、石積みから推測した近代の石垣修理範囲内に収まると思われる。
- ・盛土①(礫あり)の広がり、9グリッド南側土層観察ベルト以南で確認している。9グリッド北側土層観察ベルト以北の盛土①は、礫をほとんど含まなくなる(盛土①(礫なし))。
- ・盛土②古・盛土③・盛土④からは、現段階において近代以降の遺物の出土はない。
- ・天守台表面の検出平面図を作成した。現況では、大型石が無秩序に分布・露出している状態である。近代に崩落した築石が、土中に混入しているものと考えられる。
- ・天守台表面は、中心部に向かって窪んでいる。また、全体的に内濠側へ傾いている。

(委員会)

- ・東西・南北方向の土層断面図で、各盛土の関係性を明確に示すこと。
- ・本丸東面石垣の立面写真に、蛇口から北側に向かう石積みの境界線が見える。これは、元禄以降に蛇口の修理があったことを示すのではないか。
- ・天守台の礎石がはっきりしない。礎石は、本当にないのか。ないとすれば、どうやって天守を安定させているのか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・天守台表面に亀裂が走っている。これは異常な状況である。亀裂の深さも、今のうちに記録しておくこと。 <p>③ 石垣修理基本設計について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理上の問題があるため、根石の立面図作成には、石垣の解体が進んでから着手する。 ・野面の新補石材採取地について、まだ目途がついていない。石垣の解体と同時進行で、調査を継続する。 ・石垣の積み直しは、基本的に伝統工法で行う。今後の発掘調査成果等により、どうしても現代工法（ジオテキスタイル工法）を導入せざるをえないと判断される場合には、再度委員会に諮る。 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築石の飛び出し部分を、図面で把握しておくこと。また、内濠水際築石の立面図を追加し、クラックの入った築石がどのくらいあるのか把握しておくこと。 ・発掘調査で近世の盛土に版築が確認されているのであれば、あえてジオテキスタイル工法を採用する必要はない。 ・根石より上の築石であっても、傷みが少ないと判断される場合には、解体せずに残すように。また、慶長の野面の石垣は、新補石材確保の問題もあることから、できるだけ残した方が良い。 ・天守の保存修理に当たり、礎石をどう扱うのか。 ・石垣解体過程で、今後問題が多々発生することが予想される。文化財担当者が主体となり、今後もしっかり修理に関わるように。
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・傍聴者数…2名（東奥日報・陸奥新報記者） ・委託業者…（公財）文化財建造物保存技術協会 岩田氏・木村氏・富沢氏